主体的に学び、自己の生き方を探究する生徒の育成

~ 「学ぶ意義」を意識した授業づくりと学習習慣の関連を通して~

(3年計画の2年次)

校長 西山康巳

1 研究主題について

生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等による社会の急速な変化のもと、今を生きる中学生は、これから厳しい挑戦の時代をたくましく生きることが求められている。本校では、変化の激しい時代を生きるために、キャリア教育の視点を生かし、基礎的・汎用的能力の育成を意識することが重要であると考えた。基礎的・汎用的能力の育成が学習意欲の向上及び学習習慣の定着につながり、思考力・判断力・表現力の育成を図ることができると考え、本主題を設定した。

本研究を進めるにあたっては、次の2点を重点項目に掲げた。

- 1点目は、キャリア教育の視点を授業に生かし、「学ぶ意義」を理解させる取組を行うことである。
- (1) 教職員・生徒がともに基礎的・汎用的能力の意識を高める工夫。

「人間関係・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」

「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」

- (2) 日常と学習内容を結び付けるなど、受検以外の学ぶ意義を意識させる授業展開。
- (3) 自己理解をもとに、生徒それぞれの学ぶ意義を考えさせる場の設定。
- (4) 学ぶ意義の理解につながる日常的な自己管理とキャリアプランニングの場の設定。

2点目は、生徒の主体性と対話的な学習及び思考力・判断力・表現力の育成を支援するために、特別支援教育の視点を取り入れることである。

- (1) 「焦点化」…「何を学ぶか」を明確化する工夫。
- (2) 「視覚化」…「どのように学ぶか」を明確化する工夫。
- (3) 「共有化」…「何ができるようになるか」を集団として共有する場面の工夫。

これらを意識した授業づくりの推進は、生徒の授業における「学ぶ意義」の喚起と理解につながった。しかし、授業における「学ぶ意義」の喚起と理解が、学習習慣の定着・向上に結び付いているかは不透明である。そこで、今年度は、キャリア教育の視点(学ぶ意義)と特別支援教育の視点(焦点化・視覚化・共有化)に基づく授業改善を継続しつつ、生徒が家庭でも学習を頑張ろうと思える授業の工夫に取り組み、アンケート等を通して、生徒の変容を確かめていきたい。

2 研究のねらい

授業を中心とした教育活動にキャリア教育と特別支援教育の視点を取り入れた授業展開を工夫することを、教員が共通理解のもと協働実践する。それによる生徒一人一人の学習意欲、学習習慣、 思考力・判断力・表現力に関する変容を明らかにする。

3 研究仮説

授業を中心とした教育活動にキャリア教育と特別支援教育の視点を取り入れ、自己の生き方を意識した「学ぶ意義」を考えさせ、理解させることにより、生徒一人一人が主体的に学び、思考力・判断力・表現力を育成することができる。

4 研究内容

- (1) 研究協議と発表の機会を設けるために、3人1組のグループによる相互公開授業を実施する。
- (2) 授業改善と生徒の変容の状況把握をするために、生徒・教員によるアンケートを実施する。
- (3) 学習委員会を活用し、課題を生徒自身のものとして、主体的に解決させる活動を取り入れる。
- (4) 日常的な自己管理能力を育成するために、生活記録ノート「私のあゆみ」を活用する。
- (5) 基礎的・汎用的能力を育成するために、キャリア・パスポートを活用する。

5 研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究等

月	日	授業研究	全体会等
4	2		全体会(研究の方向性の共通理解)
			教科・領域部会
	5		全体会(具体的な取組の共通理解)
	2 7	指導案作成に関する伝達講習	
5	1 7		教科部会(NRT 分析)
	2 5	教育指導課・総合教育センター計画訪問	
7		授業公開 (庄内)	
8	1 9		全体会 (1学期の成果と課題)
			学年部会(QU 考察)
9		授業公開 (作山)	
1 0		授業公開(馬場、名久井)	
1 1	8		教科・領域部会 (成果と課題)
		授業公開 (沼岡、慶長)	
1 2	2 2		学年部会(QU 考察)
		授業公開	
		(館美、小比類巻、三浦直、鈴木、蹴揚)	
1	1 1		全体会(まとめ)
	2 6		教科・領域部会(次年度に向けて)
		授業公開 (進藤、立場、柏崎)	
2		授業公開(舘、小山内、佐々木、三浦留)	

(2) 一般研修

月	日	内容·講師·概要等	
5	1 9	生徒理解研修	
8	2 0	「一人一台端末」の活用に関する一般研修	
		(講師 八戸市総合教育センター主任指導主事 大下洋一氏)	

6 研究の成果

- (1) 新学習指導要領の完全実施に伴い、今年度はできる限り同じ教科で3人1組を作り、キャリア教育と特別支援教育の視点を生かした授業実践について理解を深めた。
- (2) アンケートの実施により、教員・生徒の課題の共有化を図ることができた。また、「学習の約束」 に焦点を当てて、生徒主体の授業改善に結びつけることができた。

7 研究の課題

- (1) 計画訪問後に行事が続いて公開授業が実施できず、後半に集中した。早めの計画・実施により、一層効果的な実践研究を進めたい。
- (2) 昨年度、生徒の授業における意欲が家庭学習に結び付かないことが課題となり、その解決に向けて授業改善を進めたが、教科の授業だけで「学ぶ意義」を意識させることは難しく、教科の指導以外で、「学ぶ意義」を意識させる機会が必要である。方向性としては、外部講師等を活用し、働く大人の話を聞く機会を設定することにより、自分の進路や将来設計に関心をもたせ、今の学習が将来役に立つことを理解させることで、主体的に学ぼうとする意欲の向上につなげたい。

(記入者 立場 里香)